

# あいち防災通信

第13号

●発行●  
愛知県・あいち防災  
協働社会推進協議会

## 熊本地震を教訓に

## 防災対策をやるのは『今』!



あいち防災キャラクター  
防災ナマズン

### 震度7の地震が2回起こった、熊本地震

#### 熊本地震の概要

平成28年4月14日21時26分、熊本県熊本地方でマグニチュード6.5の地震が発生し、熊本県の益城町で震度7を、玉名市、西原村、宇城市、熊本市で震度6弱を観測したほか、九州地方から本州の中部地方にかけて震度5強～1を観測した。更に、4月16日1時25分にも、前震を上回るマグニチュード7.3の地震が発生し、益城町と西原村で震度7を、南阿蘇村、菊池市、宇土市、大津町、嘉島町、宇城市、合志市、熊本市で震度6強を観測したほか、九州地方から東北地方の一部にかけて震度6弱～1を観測した。これだけ短期間に同じ地域で震度7の地震が2回発生したのは、気象庁観測史上初めてのことである。

熊本地震は直下型地震であるが、本震後も地震活動が活発な状態が続き、震源分布が広範囲に広がる異例の経過をたどっている。4月14日21時以降に熊本県の熊本地方・阿蘇地方、大分県の西部・中部で発生した震度1以上の地震は、11月13日24時の時点で累計4,140回（震度4以上は140回）を記録した。震源分布も九州北東部や南西部に拡大した。

別府湾から九重山・阿蘇山を経て島原半島に至る別府一島原地溝帯では、4月16日3時55分に熊本県阿蘇地方でマグニチュード5.8、震度6強の地震が、同日7時11分に大分県中部でマグニチュード5.3、震度5弱の地震が発生している。今後、強い地震が大分県を越えて更に東へ広がる可能性については、地震学者の間で見解が分かれている。松島健九州大学准教授は、「1995年に中央構造線近くで阪神大震災が起きた。今回も中央構造線に沿って他の地震が起きる可能性は否定できない」との考えを、岩田知孝京都大学防災研究所教授は、「慶長伏見地震などから約400年しかたっていない。ひずみはたまっておらず、すぐには動かないのでは」との考えを示した。岡村真高知大学防災推進センター特任教授は、震源域が四国方面に延びるかは、力のかかり具合の客観的データがないため、今の地震学では分からないとしながら、気象庁が発表する余震分布から震源域の広がりを読み取れるとの見方を示している。



図 熊本地震の主な震源地及び断層帯の概略

出典  
国立国会図書館「平成28年（2016年）熊本地震の概況第910号」（H28.5.26）（一部、加筆）  
（[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_9979249\\_po\\_0910.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9979249_po_0910.pdf?contentNo=1)）

#### 熊本地震の被害状況

人的被害	死亡173人、重傷1,075人、軽傷1,549人
住家被害	全壊8,366棟、半壊32,362棟、一部破損138,449棟
非住家被害	公共建物325棟、その他4,073棟
り災世帯	73,975世帯※
消防署出動	出動人員6,093人（延べ）※
消防団出動	出動人員88,788人（延べ）※ ※調査中の市町村あり
避難状況	最大避難者数183,882名 最大避難所数855箇所（4月17日9時30分時点）

出典  
内閣府「非常災害対策本部 平成28年（2016年）熊本県熊本地方を震源とする地震に係る被害状況等について」（H28.12.14）（<http://www.bousai.go.jp/updates/h280414jishin/>）  
熊本県「平成28年熊本地震に関する災害対策本部会議資料 熊本地震等に係る被害状況について（第206報）」（H28.12.27）（[http://www.pref.kumamoto.jp/kiji\\_15459.html](http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_15459.html)）

#### 被災地へ派遣された県職員の声

- ・住民の方は「自分の地域に地震は来ない」という認識が強いと感じた。また、避難所が被災するとは考えていなかった。
- ・避難指示・勧告が出ていても避難せず、自宅で生活する住民がいた。
- ・災害弱者ほど車中泊を選択する傾向が見られた。
- ・避難生活が長期化すると、ペットを飼う人と飼わない人との間で対立が発生した。
- ・末端の避難所まで物資が届かなかった。
- ・高齢者世帯を中心として、家屋の耐震化や家具の固定が実施されていない。

#### 被災者の声

##### 体育館の廊下で1か月 疲労はピークに

相次ぐ余震に加え、深夜や早朝も人が通るため、睡眠が浅く、食欲がわかない日もある。

##### 自宅は全壊 再建は断念

住めるような状態ではないので、あきらめるしかないという思い。先行きが不安で、どうしたらいいのかわからない。精神的にまいっている。

##### テントでの生活

腰の負担もすごいし、狭い空間だから寝返りもできないし、足がまっすぐ伸ばせない。（自宅は）形はあって住めるのは住めるんですけど、不安と一緒に住まないといけない。

出典  
NHK「熊本地震1か月 長引く避難生活 被災者はいま」  
<http://www.nhk.or.jp/ohayou/digest/2016/05/0516.html>

近年日本では、熊本地震などの地震や水害が多発しており、災害の恐ろしさを改めて実感させられます。愛知県を含むこの地域では『南海トラフ地震』の発生が危惧されており、「他の地域の出来事」では見過ごすことができない状況です。いざという時のために、自宅の耐震化や家具の固定、備蓄品・非常用持出品の準備などの『自助』の取組や、地域の防災訓練に参加するなどの『共助』の取組を進めましょう。